



StackWise Virtual コマンド

- [clear diagnostic event-log](#) (1 ページ)
- [stackwise-virtual](#) (2 ページ)
- [diagnostic monitor](#) (3 ページ)
- [diagnostic schedule module](#) (5 ページ)
- [diagnostic start](#) (7 ページ)
- [diagnostic stop](#) (10 ページ)
- [domain id](#) (11 ページ)
- [dual-active detection pagp](#) (12 ページ)
- [hw-module beacon switch](#) (12 ページ)
- [hw-module switch slot](#) (13 ページ)
- [hw-module switch usbflash](#) (15 ページ)
- [stackwise-virtual link](#) (16 ページ)
- [stackwise-virtual dual-active-detection](#) (16 ページ)
- [show hw-module switch subslot](#) (17 ページ)
- [show logging onboard switch](#) (19 ページ)
- [show stackwise-virtual](#) (22 ページ)

clear diagnostic event-log

特定のスイッチモジュールまたはイベントタイプの診断イベントログをクリアするには、特権 EXEC モードで **clear diagnostic event-log** コマンドを使用します。

```
clear diagnostic event-log [{event-type {error | info | warning}} | switch {switch_num module module_num | all [{event-type {error | info | warning}}]}]}
```

構文の説明

event-type error	エラーイベントをクリアします。
event-type info	情報イベントをクリアします。
event-type warning	警告イベントをクリアします。

switch num	特定のスイッチのイベントをクリアします。
module num	特定のモジュールのイベントをクリアします。
switch all	すべてのスイッチのすべてのイベントログをクリアします。

コマンドモード

特権 EXEC (#)

コマンド履歴

例

次に、エラーイベントログをクリアする例を示します。

```
Device# clear diagnostic event-log event-type error
```

次に、スイッチ 1 モジュール 1 のイベントログをクリアする例を示します。

```
Device# clear diagnostic event-log switch 1 module 1
```

次に、すべてのスイッチのエラーイベントログをクリアする例を示します。

```
Device# clear diagnostic event-log switch all
```

関連コマンド

コマンド	説明
show diagnostic events	診断イベントログを表示します。

stackwise-virtual

スイッチの Cisco StackWise Virtual を有効にするには、グローバル コンフィギュレーション モードで **stackwise-virtual** コマンドを使用します。Cisco StackWise Virtual を無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
stackwise-virtual
no stackwise-virtual
```

構文の説明

stackwise-virtual	Cisco StackWise Virtual を有効にします。
--------------------------	----------------------------------

コマンド デフォルト

ディセーブル

コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション (config)

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.6.1	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン Cisco StackWise Virtual を無効にしたら、スイッチをリロードしてスタック解除する必要があります。

例

次に、Cisco StackWise Virtual を有効にする例を示します。

```
デバイス(config)# stackwise-virtual
```

diagnostic monitor

ヘルスマモニタリング診断テストを設定するには、グローバル コンフィギュレーション モードで **diagnostic monitor** コマンドを使用します。テストをディセーブルにし、デフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
diagnostic monitor interval switch number module number test {name | test-id | test-id-range | all} [hh:mm:ss milliseconds day [cardindex number]
```

```
diagnostic monitor switch number module number test {name | test-id | test-id-range | all} [cardindex number]
```

```
diagnostic monitor threshold switch number module number test {name | test-id | test-id-range | all} failure count count [days number | hours number | milliseconds number | minutes number | runs number | seconds number] cardindex number
```

```
no diagnostic monitor interval switch number module number test {name | test-id | test-id-range | all} [cardindex number]
```

```
no diagnostic monitor switch number module number test {name | test-id | test-id-range | all} [cardindex number]
```

```
no diagnostic monitor threshold switch number module number test {name | test-id | test-id-range | all} { failure count [count [days number | hours number | milliseconds number | minutes number | runs number | seconds number] | cardindex number] | cardindex number }
```

構文の説明

interval	テストの間隔を設定します。
switch number	スイッチ番号（スタックメンバ番号）を指定します。スイッチがスタンドアロンスイッチの場合、スイッチ番号は1です。スイッチがスタック内にある場合、スタック内のスイッチメンバ番号に応じて1～9を指定できます。 このキーワードは、スタック対応スイッチでのみサポートされています。
test	実行するテストを指定します。

<i>name</i>	テストの名前。
<i>test-id</i>	テストの ID 番号。
<i>test-id-range</i>	テストの ID 番号の範囲。カンマおよびハイフンで区切られた整数で範囲を入力します（例：1,3-6 はテスト ID 1、3、4、5 および 6）。
all	すべての診断テストを指定します。
<i>hh:mm:ss</i>	モニタリング間隔（時間、分、秒）。時間（0～24）、分（0～60）、秒（0～60）を入力します。
<i>milliseconds</i>	モニタリング間隔（ミリ秒（ms））。テスト時間をミリ秒（0～999）で入力します。
<i>day</i>	モニタリング間隔（日数）。テストの間隔を日数（0～20）で入力します。
threshold	障害しきい値を設定します。
failure count <i>count</i>	障害しきい値のカウンタを設定します。
cardindex <i>number</i>	（任意）カードインデックス番号を指定します。

コマンド デフォルト モニタリングはディセーブルで、障害しきい値は設定されていません。

コマンド モード グローバル コンフィギュレーション（config）

コマンド履歴

リリース	変更内容
------	------

Cisco IOS XE Gibraltar 16.11.1	このコマンドが導入されました。
--------------------------------	-----------------

使用上のガイドライン 診断モニタリングをイネーブルにする前に、障害しきい値およびテストの間隔を設定する必要があります。

diagnostic monitor switch module test コマンドを入力する際は、すべての接続ポートをディセーブルにしてネットワークトラフィックを隔離する必要があります。また、テスト中はテストパケットを送信しないでください。

例

次に、テスト 1 の障害しきい値カウンタを 20 に設定する例を示します。

```
Device# configure terminal
Device(config)# diagnostic monitor threshold switch 2 test 1 failure count 20
```

次に、テスト 2 のモニタリング間隔を設定する例を示します。

```
Device# configure terminal
Device(config)# diagnostic monitor interval switch 2 test 2 12:30:00 750 5
```

関連コマンド

コマンド	説明
show diagnostic content switch module	オンライン診断テストの結果を表示します。

diagnostic schedule module

特定のスイッチモジュールに対するテストベースの診断タスクをスケジューリングしたり、スーパーバイザエンジンのスイッチオーバーをスケジューリングしたりするには、グローバルコンフィギュレーションモードで **diagnostic schedule switch module** コマンドを使用します。スケジューリングを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
diagnostic schedule switch number module module-num test {test-id | {{complete |
minimal}} {dailyhh:mm | onmonth | weekly day-of-week }} | {{all | basic | non-disruptive | per-port
}} {dailyhh:mm | onmonth | port {interface-port-number | port-number-list | all {daily hh:mm | on month
| weekly day-of-week }} | weekly day-of-week }}
no diagnostic schedule switch number module module-num test {test-id | {{complete |
minimal}} {dailyhh:mm | onmonth | weekly day-of-week }} | {{all | basic | non-disruptive | per-port
}} {dailyhh:mm | onmonth | port {interface-port-number | port-number-list | all {daily hh:mm | on month
| weekly day-of-week }} | weekly day-of-week }}
```

構文の説明

switch <i>switch_num</i>	スイッチ番号を指定します。
module <i>module_num</i>	モジュール番号を指定します。
test	診断テストスイート属性を指定します。
<i>test-id</i>	実行するテストの ID 番号。 テスト ID のリストを表示するには、 show diagnostic content コマンドを使用します。
all	すべての診断テストを実行します。
complete	すべてのブートアップテストスイートを選択します。
minimal	最小限のブートアップテストスイートを選択します。
non-disruptive	中断を伴わないテストスイートを選択します。

per-port	ポート単位のテストスイートを選択します。 per-port は、スケジューリングされたスイッチオーバーを指定する場合はサポートされません。
port	(任意) テストのスケジュールを設定するポートを指定します。
<i>interface-port- number</i>	(任意) ポート番号です。範囲は 1 ~ 48 です。
<i>port-number-list</i>	(任意) ポート番号の範囲 (ハイフンで区切ります)。範囲は 1 ~ 48 です。
all	(任意) すべてのポートを指定します。
on month	テストベースの診断タスクのスケジュールを指定します。 January や February など、月の名前を大文字または小文字のいずれかで入力します。
daily hh:mm	テストベースの診断タスクの日次スケジュールを指定します。 2桁の数字 (24 時間表記) で時間および分を入力します。コロン (:) が必要です。
weekly day-of-week	テストベースの診断タスクの週次スケジュールを指定します。 Monday や Tuesday など、曜日を大文字または小文字のいずれかで入力します。

コマンド デフォルト 特定のスイッチモジュールに対するテストベースの診断タスクはスケジューリングされていません。

コマンド モード グローバル コンフィギュレーション (config)

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Fuji 16.9.1	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン アクティブ スーパーバイザ エンジンからスタンバイ スーパーバイザ エンジンへのスイッチオーバーをスケジューリングするには、**diagnostic schedule switch module test** コマンドを実行します。

show diagnostic content switch module コマンドを実行すると、テスト ID のリストが表示されます。**ScheduleSwitchover** フィールドにテスト ID が表示されます。

次のコマンドを使用すると、定期的なスイッチオーバー（毎日または毎週）または指定した時点での 1 回のスイッチ オーバーを指定できます。

- **diagnostic schedule switch number module module_num test test-id on mm**
- **diagnostic schedule switch number module module_num test test-id daily hh:mm**
- **diagnostic schedule switch number module module_num test test-id weekly day-of-week**



(注) スタンバイ スーパーバイザ モジュールがシステムをスイッチ オーバーできない場合のシステムのダウンタイムを回避するため、スタンバイ スーパーバイザ モジュールからアクティブ スーパーバイザ モジュールへのスイッチオーバーをスイッチオーバーが発生してから 10 分後にスケジューリングすることを推奨します。

例

次に、特定のスイッチモジュールに対して特定の月の特定の日に診断テストを実行するようにスケジューリングする例を示します。

```
Device# configure terminal
Device(config)# diagnostic schedule switch 1 module 1 test 5 on may
```

次に、特定のスイッチモジュールに対して毎日特定の時間に診断テストを実行するようにスケジューリングする例を示します。

```
Device# configure terminal
Device(config)# diagnostic schedule switch 1 module 1 test 5 daily 12:25
```

次に、特定のスイッチモジュールに対して毎週特定の曜日に診断テストを実行するようにスケジューリングする例を示します。

```
Device# configure terminal
Device(config)# diagnostic schedule module 1 test 5 weekly friday
```

関連コマンド

コマンド	説明
show diagnostic content	すべてのテストおよびモジュールについて、テスト ID、テスト属性、サポート対象テストレベルなどのテスト情報を表示します。
show diagnostic schedule	現在スケジューリングされている診断タスクを表示します。

diagnostic start

指定した診断テストを実行するには、特権 EXEC モードで **diagnostic start** コマンドを使用します。

diagnostic start switch *number module module_num test* {*test-id* | **minimal** | **complete** | {{**all** | **basic** | **non-disruptive** | **per-port** }} {**port**{*num* | *port_range* | **all**}}

構文の説明

switch <i>switch_num</i>	スイッチ番号を指定します。
module <i>module_num</i>	モジュール番号を指定します。
test	実行するテストを指定します。
<i>test-id</i>	実行するテストの ID 番号を入力します。 カンマおよびハイフンで区切られた整数で <i>test-id-range</i> または <i>port_range</i> を入力します (例: 1,3-6 はテスト ID 1、3、4、5、および 6)。
minimal	最小限のブートアップ診断テストを実行します。
complete	すべてのブートアップ診断テストを実行します。
basic	基本的なオンデマンド診断テストを実行します。
per-port	ポート単位のレベルテストを実行します。
non-disruptive	中断を伴わないヘルスマonitoringテストを実行します。
all	すべての診断テストを実行します。
port <i>num</i>	(任意) インターフェイスのポート番号を指定します。 範囲は 1 ~ 48 です。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

特権 EXEC (#)

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Fuji 16.9.1	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

テスト ID のリストを表示するには、**show diagnostic content** コマンドを実行します。
テストを停止する場合は、**diagnostic stop** コマンドを使用します。

例

次に、すべてのオンライン診断テストを実行する例を示します。

```
Device# diagnostic start switch 1 module 1 test all
```

```
Diagnostic[switch 1, module 1]: Running test(s) 2 may disrupt normal system operation  
and requires reload
```

```
Do you want to continue? [no]: y
```

```
Device#
```

```
*Jul 5 03:04:49.081 PDT: %DIAG-6-TEST_RUNNING: switch 1, module 1: Running
```



```

TestGoldPktLoopback{ID=1} ...
*Jul 5 03:04:49.086 PDT: %DIAG-6-TEST_OK: switch 1, module 1: TestGoldPktLoopback{ID=1}
has completed successfully
*Jul 5 03:04:49.086 PDT: %DIAG-6-TEST_RUNNING: switch 1, module 1: Running
TestPhyLoopback{ID=2} ...
*Jul 5 03:04:49.092 PDT: %DIAG-6-TEST_OK: switch 1, module 1: TestPhyLoopback{ID=2} has
completed successfully
*Jul 5 03:04:49.092 PDT: %DIAG-6-TEST_RUNNING: switch 1, module 1: Running
TestThermal{ID=3} ...
*Jul 5 03:04:52.397 PDT: %DIAG-6-TEST_OK: switch 1, module 1: TestThermal{ID=3} has
completed successfully
*Jul 5 03:04:52.397 PDT: %DIAG-6-TEST_RUNNING: switch 1, module 1: Running
TestScratchRegister{ID=4} ...
*Jul 5 03:04:52.414 PDT: %DIAG-6-TEST_OK: switch 1, module 1: TestScratchRegister{ID=4}
has completed successfully
*Jul 5 03:04:52.414 PDT: %DIAG-6-TEST_RUNNING: switch 1, module 1: Running TestPoe{ID=5}
...
*Jul 5 03:04:52.415 PDT: %DIAG-6-TEST_OK: switch 1, module 1: TestPoe{ID=5} has completed
successfully
*Jul 5 03:04:52.415 PDT: %DIAG-6-TEST_RUNNING: switch 1, module 1: Running
TestUnusedPortLoopback{ID=6} ...
*Jul 5 03:04:52.415 PDT: %DIAG-6-TEST_OK: switch 1, module 1: TestUnusedPortLoopback{ID=6}
has completed successfully
*Jul 5 03:04:52.415 PDT: %DIAG-6-TEST_RUNNING: switch 1, module 1: Running
TestPortTxMonitoring{ID=7} ...
*Jul 5 03:04:52.416 PDT: %DIAG-6-TEST_OK: switch 1, module 1: TestPortTxMonitoring{ID=7}
has completed successfull

```

関連コマンド

コマンド	説明
diagnostic bootup level	ブートアップ診断レベルを設定します。
diagnostic event-log size	診断イベントログのサイズをダイナミックに変更します。
diagnostic monitor	ヘルスマモニタリング診断テストを設定します。
diagnostic ondemand	オンデマンド診断を設定します。
diagnostic schedule	特定のベイ、スロット、またはサブスロットの診断テストのスケジュールを設定します。
diagnostic stop	指定した診断テストを停止します。
show diagnostic bootup	設定されているブートアップ時の診断レベルを表示します。
show diagnostic content module	使用可能な診断テストを表示します。
show diagnostic description	診断テストの説明を表示します。
show diagnostic events	診断イベントログを表示します。
show diagnostic ondemand settings	オンデマンド診断の設定を表示します。
show diagnostic result	モジュールの診断テストの結果を表示します。

コマンド	説明
show diagnostic schedule	現在スケジュールされている診断タスクを表示します。
show diagnostic status	実行中の診断テストを表示します。

diagnostic stop

テストを停止するには、特権 EXEC モードで **diagnostic stop** コマンドを使用します。

diagnostic stop switch number module module_num

構文の説明	switch switch_num	説明
	switch switch_num	スイッチ番号を指定します。
	module module_num	モジュール番号を指定します。

コマンド デフォルト なし

コマンド モード 特権 EXEC (#)

コマンド履歴

コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE Fuji 16.9.1	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン テストを開始する場合は、**diagnostic start** コマンドを使用します。

例 次に、診断テストを停止する例を示します。

```
Device# diagnostic stop module 3
```

関連コマンド	コマンド	説明
	diagnostic bootup level	ブートアップ診断レベルを設定します。
	diagnostic event-log size	診断イベントログのサイズを動的に変更します。
	diagnostic monitor	ヘルスマモニタリング診断テストを設定します。
	diagnostic ondemand	オンデマンド診断を設定します。
	diagnostic schedule	特定のベイ、スロット、またはサブスロットの診断テストのスケジュールを設定します。
	diagnostic start	指定した診断テストを実行します。

コマンド	説明
show diagnostic bootstrap	設定されているブートアップ時の診断レベルを表示します。
show diagnostic content module	使用可能な診断テストを表示します。
show diagnostic description	診断テストの説明を表示します。
show diagnostic events	診断イベントログを表示します。
show diagnostic ondemand settings	オンデマンド診断の設定を表示します。
show diagnostic result	モジュールの診断テストの結果を表示します。
show diagnostic schedule	現在スケジュールされている診断タスクを表示します。
show diagnostic status	実行中の診断テストを表示します。

domain id

スイッチで Cisco StackWise Virtual ドメイン ID を設定するには、StackWise Virtual コンフィギュレーション モードで **domain id** コマンドを使用します。無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

domain id
no domain id

構文の説明

domain	StackWise Virtual 設定を特定のドメインに関連付けます。
<i>id</i>	ドメイン ID の値。範囲は 1 ~ 255 です。デフォルトは 1 です。

コマンド デフォルト

ドメイン ID が設定されていません。

コマンド モード

StackWise Virtual コンフィギュレーション (config-stackwise-virtual)

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.6.1	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン このコマンドはオプションです。ドメイン ID を設定する前に、**stackwise-virtual** コマンドを使用して StackWise Virtual を有効にする必要があります。

例

次に、Cisco StackWise Virtual を有効にして、ドメイン ID を設定する例を示します。

```
デバイス(config)# stackwise-virtual
デバイス(config-stackwise-virtual)#domain 2
```

dual-active detection pagp

PAgP デュアルアクティブ検出を有効にするには、StackWise Virtual コンフィギュレーションモードで **dual-active detection pagp** コマンドを使用します。PAgP デュアルアクティブ検出をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

dual-active detection pagp
no dual-active detection pagp

構文の説明	dual-active detection pagp	pagp デュアルアクティブ検出を有効にします。
コマンドデフォルト	イネーブル	
コマンドモード	StackWise Virtual コンフィギュレーション (config-stackwise-virtual)	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE Everest 16.6.1	このコマンドが導入されました。

例：

次に、channel-group で PAgP デュアルアクティブ検出の信頼モードを有効にする例を示します。

```
デバイス(config)# stackwise-virtual
デバイス(config-stackwise-virtual)#dual-active detection pagp
デバイス(config-stackwise-virtual)#dual-active detection pagp trust channel-group 1
```

hw-module beacon switch

Field Replaceable Unit (FRU) のブルービーコン LED を制御するには、特権 EXEC モードで **hw-module beacon switch** コマンドを使用します。

```
hw-module beacon switch {switch-number|active|standby}
{RP {active|standby}|fan-tray|power-supply power-supply slot number|slot slot number}
{off|on|status}
```

構文の説明		
	<i>switch-number</i>	アクセスするスイッチ。有効値は 1 と 2 です。
	active	スイッチのアクティブインスタンスを選択します。
	standby	スイッチのスタンバイインスタンスを選択します。
	RP	選択したスイッチのルートプロセッサを選択します。
	fan-tray	選択したスイッチのファンを選択します。
	power-supply <i>power-supply slot number</i>	電源のスロット番号を指定します。有効な値は 1 ～ 4 です。
	slot <i>slot-number</i>	スロット番号を指定します。有効な値は 1 ～ 4 です。
	off	選択したスイッチのルートプロセッサとスロットのビーコン LED をオフにし、ファンと電源をオフにします。
	on	選択したスイッチのルートプロセッサとスロットのビーコン LED をオンにし、ファンと電源をオフにします。
	status	選択したスイッチのルートプロセッサ、ファントレイ、電源スロット、およびスロットのビーコン LED ステータスを表示します。

コマンドデフォルト なし

コマンドモード 特権 EXEC (#)

コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE Fuji 16.9.1	このコマンドが導入されました。

hw-module switch slot

スロットで使用可能なラインカードやスーパーバイザなどのコンポーネントを制御するには、グローバル コンフィギュレーション モードで **hw-module switch slot** コマンドを使用します。

```
hw-module switch switch-number slot slot-number {logging
onboard [counter|environment|message|poe|temperature|voltage]|shutdown}
```

構文の説明		
	<i>switch-number</i>	アクセスするスイッチ。有効値は 1 と 2 です。

slotslot-number アクセスするスロット番号を指定します。有効な値は1～4です。

- 1: ラインカードスロット 1
- 2: スーパーバイザスロット 0
- 3: スーパーバイザスロット 1
- 4: ラインカードスロット 4

logging onboard オンボードロギングを有効にします。

counter (任意) オンボードカウンタロギングを設定します。

environment (任意) オンボード環境ロギングを設定します。

message (任意) オンボードメッセージロギングを設定します。

poe (任意) オンボード PoE ロギングを設定します。

temperature (任意) オンボード温度ロギングを設定します。

voltage (任意) オンボード電圧ロギングを設定します。

shutdown Field Replaceable Unit (FRU) をシャットダウンします。

コマンド デフォルト なし

コマンド モード グローバル コンフィギュレーション (config)

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Fuji 16.9.1	このコマンドが導入されました。

例

次に、スイッチ1スロット1に対してオンボードロギングを有効にする例を示します。

```
Device# hw-module switch 1 slot 1 logging onboard
```

次に、スイッチ1スロット1に対してオンボードカウンタロギングを設定する例を示します。

```
Device# hw-module switch 1 slot 1 logging onboard counter
```

次に、スイッチ1スロット1に対してオンボード環境ロギングを設定する例を示します。

```
Device# hw-module switch 1 slot 1 logging onboard environment
```

次に、スイッチ 1 スロット 1 に対してオンボードメッセージロギングを設定する例を示します。

```
Device# hw-module switch 1 slot 1 logging onboard message
```

次に、スイッチ 1 スロット 1 に対してオンボード PoE ロギングを設定する例を示します。

```
Device# hw-module switch 1 slot 1 logging onboard poe
```

次に、スイッチ 1 スロット 1 に対してオンボード温度ロギングを設定する例を示します。

```
Device# hw-module switch 1 slot 1 logging onboard temperature
```

次に、スイッチ 1 スロット 1 に対してオンボード電圧ロギングを設定する例を示します。

```
Device# hw-module switch 1 slot 1 logging onboard voltage
```

次に、FRU をシャットダウンする例を示します。

```
Device# hw-module switch 1 slot 1 shutdown
```

hw-module switch usbflash

USB SSD のマウントを解除するには、特権 EXEC モードで **hw-module switch *switch-number* usbflash** コマンドを使用します。

hw-module switch *switch-number*usbflashunmount

構文の説明	<i>switch number</i> アクセスするスイッチ。有効値は1と2です。
	usbflash unmount USB SSD のマウントを解除します。
コマンドデフォルト	なし
コマンドモード	グローバル コンフィギュレーション (config)
コマンド履歴	リリース 変更内容
	Cisco IOS XE Fuji このコマンドが導入されました。 16.9.1

例

次に、スイッチ 1 から USB SSD のマウントを解除する例を示します。

```
Device# hw-module switch 1 usbflash unmount
```

stackwise-virtual link

インターフェイスを設定済みの StackWise Virtual リンクと関連付けるには、インターフェイス コンフィギュレーションモードで **stackwise-virtual link** コマンドを使用します。インターフェイスの関連付けを解除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
stackwise-virtual link link-value
no stackwise-virtual link link-value
```

構文の説明	stackwise-virtual link	StackWise Virtual リンクに 10 G または 40 G インターフェイスを関連付けます。
	<i>link value</i>	Cisco StackWise Virtual に対して設定されているドメイン ID。
コマンド デフォルト	ディセーブル	
コマンド モード	インターフェイス コンフィギュレーション (config-if)。	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE Everest 16.6.1	このコマンドが導入されました。

例：

次に、40 ギガビット イーサネット インターフェイスと設定済みの Stackwise Virtual Link (SVL) を関連付ける例を示します。

```
デバイス(config)# interface FortyGigabitEthernet1/1/1
デバイス(config-if)#stackwise-virtual link 1
```

stackwise-virtual dual-active-detection

インターフェイスをデュアルアクティブ検出リンクとして設定するには、インターフェイス コンフィギュレーションモードで **stackwise-virtual dual-active-detection** コマンドを使用します。インターフェイスの関連付けを解除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
stackwise-virtual dual-active-detection
```


no stackwise-virtual dual-active-detection

構文の説明	stackwise-virtual dual-active-detection	指定された 10 G または 40 G インターフェイスの Cisco StackWise Virtual デュアルアクティブ検出を有効にします。
コマンドデフォルト	ディセーブル	
コマンドモード	インターフェイス コンフィギュレーション (config-if)	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE Everest 16.6.1	このコマンドが導入されました。

例 :

次に、10 ギガビットイーサネット インターフェイスをデュアルアクティブ検出リンクとして設定する例を示します。

```
デバイス (config) # interface TenGigabitEthernet1/0/2
デバイス (config-if) # stackwise-virtual dual-active-detection
```

show hw-module switch subslot

システムおよびシャーシのロケーション情報でサポートされているすべてのモジュールの情報を表示するには、特権 EXEC モードで **show hw-module switch switch-number subslot** コマンドを使用します。この機能をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
show hw-module switch switch-number subslot
{ slot/subslot | all { attribute | entity | oir | sensors [limits] | subblock | tech-support } }
```

```
noshw hw-module switch switch-number subslot
{ slot/subslot | all { attribute | entity | oir | sensors [limits] | subblock | tech-support } }
```

構文の説明	<i>switch number</i>	アクセスするスイッチを指定します。有効な値は 1 と 2 です。
	subslot <i>slot/subslot</i>	モジュールのスロットまたはサブスロット番号を指定します。 slot の有効な値は 1 ~ 4 です。 subslot の有効な値は 0 です。

all	サブスロットレベルのサポートされているすべてのモジュールを選択します。
attribute	モジュールの属性情報を表示します。
entity	エンティティ MIB の詳細を表示します。 (注) 実稼働での使用を目的としたものではありません。
oir	活性挿抜 (OIR) のサマリーを表示します。
sensors	環境センサーのサマリーを表示します。
limits	センサーの制限を表示します。
subblock	サブブロックの詳細を表示します。 (注) 実稼働での使用を目的としたものではありません。
tech-support	テクニカルサポートに使用するサブスロット情報を表示します。

コマンド デフォルト なし

コマンド モード 特権 EXEC (#)

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Fuji 16.9.1	このコマンドが導入されました。

例

次に、スイッチ 1 のサブスロットレベルのすべてのモジュールについて、モジュールの属性情報を取得する例を示します。

```
Device# show hw-module switch 1 subslot all attribute
```

次に、スイッチ 1 のサブスロットレベルのすべてのモジュールについて、モジュールの OIR 情報を取得する例を示します。

```
Device# show hw-module switch 1 subslot all oir
```

次に、スイッチ 1 のサブスロットレベルのすべてのモジュールについて、環境センサーのサマリーを取得する例を示します。

```
Device# show hw-module switch 1 subslot all sensors
```

次に、スイッチ 1 のサブスロットレベルのすべてのモジュールについて、センサーの制限の情報を取得する例を示します。

```
Device# show hw-module switch 1 subslot all sensors limit
```

次に、スイッチ 1 のサブスロットレベルのすべてのモジュールについて、テクニカルサポートに使用するサブスロット情報を取得する例を示します。

```
Device# show hw-module switch 1 subslot all tech-support
```

show logging onboard switch

スイッチのオンボード障害ロギング (OBFL) 情報を表示するには、特権 EXEC モードで **show logging onboard switch** コマンドを使用します。

```
show logging onboard switch {switch-number | active | standby} {RP {standby | active}
| slot {1 | 4 | F0 | F1 | R0 | R1}} {{clilog | counter | environment | message
| poe | temperature | uptimevo | voltage} [continuous | detail | summary] [start
hh:mm:ss day month year] [end hh:mm:ss day month year]} | state | status}
```

構文の説明

<i>switch-number</i>	OBFL 情報を表示するスイッチ。
active	アクティブスイッチに関する OBFL 情報を表示します。
standby	スタンバイスイッチに関する OBFL 情報を表示します。
RP	ルートプロセッサ (RP) を指定します。
slot	スロット情報を指定します。
clilog	スタンドアロンスイッチまたは指定したスタックメンバで入力された OBFL コマンドを表示します。
counter	スタンドアロンスイッチまたは指定したスタックメンバのカウンタを表示します。
environment	スタンドアロンスイッチまたは指定したスタックメンバの固有デバイス識別子 (UDI) 情報を表示します。接続中のすべての FRU デバイスの製品 ID (PID)、バージョン ID (VID)、シリアル番号も表示します。
message	スタンドアロンスイッチまたは指定したスタックメンバによって生成されたハードウェア関連のシステムメッセージを表示します。

poe	スタンダアロンスイッチまたは指定したスタックメンバの Power over Ethernet (PoE) ポートの消費電力を表示します。
state	スタンダアロンスイッチまたは指定したスタックメンバの状態を表示します。
status	スタンダアロンスイッチまたは指定したスタックメンバのステータスを表示します。
temperature	スタンダアロン スイッチまたは指定したスタック メンバの温度を表示します。
uptime	スタンダアロンスイッチまたは指定したスタックメンバの起動時刻、スタンダアロンスイッチまたは指定したスタックメンバの再起動の理由、およびスタンダアロンスイッチまたは指定したスタックメンバの最後の再起動からの稼働時間を表示します。
voltage	スタンダアロン スイッチまたは指定したスイッチ スタック メンバのシステム電圧を表示します。
continuous	(任意) 連続ファイルのデータを表示します。
detail	(任意) 連続データおよびサマリー データの両方を表示します。
summary	(任意) サマリー ファイルのデータを表示します。
start <i>hh:mm:ss day month year</i>	(任意) 指定した日時からのデータを表示します。24 時間表記の 2 桁の数値で時刻を入力します。13:32:45 のように、必ずコロン (:) を使用してください。day の範囲は 1 ~ 31 です。month は大文字または小文字で入力します。January または august など、月の名前をすべて入力することも、jan または Aug のように月の名前の最初の 3 文字を入力することもできます。year は、2008 のように 4 桁の数字で入力します。範囲は 1970 ~ 2099 です。
end <i>hh:mm:ss day month year</i>	(任意) 指定した日時までのデータを表示します。24 時間表記の 2 桁の数値で時刻を入力します。13:32:45 のように、必ずコロン (:) を使用してください。day の範囲は 1 ~ 31 です。month は大文字または小文字で入力します。January または august など、月の名前をすべて入力することも、jan または Aug のように月の名前の最初の 3 文字を入力することもできます。year は、2008 のように 4 桁の数字で入力します。範囲は 1970 ~ 2099 です。

コマンドモード 特権 EXEC (#)

コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE Fuji 16.9.1	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン OBFL がイネーブルの場合、スイッチはすべてのデータが格納される連続ファイルに OBFL データを記録します。連続ファイルは循環式です。連続ファイルがいっぱいになると、スイッチはサマリーファイル（別名、履歴ファイル）にデータをまとめます。サマリーファイルを作成すると、連続ファイルのスペースが解放されるので、スイッチは新しいデータを書き込みます。

特定の時間内にだけ収集されたデータを表示するには、**start** キーワードと **end** キーワードを使用します。

例

次に、**show logging onboard switch 1 RP active message** コマンドの出力例を示します。

```
Device# show logging onboard switch 1 RP active message

-----
ERROR MESSAGE SUMMARY INFORMATION
-----
MM/DD/YYYY HH:MM:SS Facility-Sev-Name | Count | Persistence Flag
-----
07/06/2018 00:45:23 %IOSXE-2-DIAGNOSTICS_FAILED : >254 LAST Diagnostics Thermal failed
07/06/2018 00:19:57 %IOSXE-2-DIAGNOSTICS_PASSED : >254 LAST Diagnostics Fantray passed
07/07/2018 11:36:10 %IOSXE-2-TRANSCEIVER_INSERTED : >254 LAST Transceiver module
inserted in TenGigabitEthernet1/2/0/5
05/03/2018 05:49:57 %IOSXE-2-TRANSCEIVER_REMOVED : 82 : LAST : Transceiver module
removed from TenGigabitEthernet1/2/0/7
07/07/2018 08:20:36 %IOSXE-2-SPA_REMOVED : >254 LAST SPA removed from subslot 14/0
07/06/2018 01:50:33 %IOSXE-2-SPA_INSERTED : >254 LAST SPA inserted in subslot 11/0
-----
```

次に、**show logging onboard switch 1 slot 4 status** コマンドの出力例を示します。

```
Device# show logging onboard switch 1 slot 4 status

-----
OBFL Application Status
-----
Application Uptime:
  Path: /obf10/
  Cli enable status: enabled
Application Message:
  Path: /obf10/
  Cli enable status: enabled
Application Voltage:
  Path: /obf10/
  Cli enable status: enabled
Application Temperature:
  Path: /obf10/
  Cli enable status: enabled
Application POE:
  Path: /obf10/
  Cli enable status: enabled
```

```

Application Environment:
  Path: /obfl0/
  Cli enable status: enabled
Application Counter:
  Path: /obfl0/
  Cli enable status: enabled
Application Clilog:
  Path: /obfl0/
  Cli enable status: enabled

```

次に、**show logging onboard switch 1 slot 4 state** コマンドの出力例を示します。

```

Device# show logging onboard switch 1 slot 4 state

GREEN

```

関連コマンド	コマンド	説明
	clear logging onboard	フラッシュメモリから OBFL データを削除します。
	hw-module logging onboard	OBFL をイネーブルにします。

show stackwise-virtual

Cisco StackWise Virtual の設定情報を表示するには、**show stackwise-virtual** コマンドを使用します。

```

show stackwise-virtual { [switch [switch number <1-2>] {link | bandwidth | neighbors |
dual-active-detection} }

```

構文の説明	switch number	(任意) スタック内の特定のスイッチの情報を表示します。
	link	Stackwise Virtual リンク情報を表示します。
	bandwidth	Stackwise Virtual の帯域幅の可用性を表示します。
	neighbors	Stackwise Virtual のネイバーを表示します。
	dual-active-detection	Stackwise Virtual のデュアルアクティブ検出情報を表示します。

コマンドデフォルト	なし
コマンドモード	特権 EXEC (#)

コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE Everest 16.6.1	このコマンドが導入されました。

例：

次に、**show stackwise-virtual** コマンドの出力例を示します。

```

デバイス# show stackwise-virtual

Stackwise Virtual: <Enabled/Disabled>
Domain Number:    <Domain Number>
Switch    Stackwise Virtual Link    Ports
-----
1          1                                Tengigabitethernet1/0/4
           2                                Tengigabitethernet1/0/5
2          1                                Tengigabitethernet2/0/4
           2                                Tengigabitethernet2/0/5

```

次に、**show stackwise-virtual link** コマンドの出力例を示します。

```

デバイス# show stackwise-virtual link

Stackwise Virtual Link (SVL) Information:
-----
Flags:
-----
Link Status
-----
U-Up D-Down
Protocol Status
-----
S-Suspended P-Pending E-Error T-Timeout R-Ready
-----
Switch    SVL    Ports                                Link-Status    Protocol-Status
-----
1          1      FortyGigabitEthernet1/1/1          U              R
2          1      FortyGigabitEthernet2/1/1          U              R

```

次に、**show stackwise-virtual bandwidth** コマンドの出力例を示します。

```

デバイス# show stackwise-virtual bandwidth

Switch    Bandwidth
-----
1          160
2          160

```

次に、**show stackwise-virtual neighbors** コマンドの出力例を示します。

```

デバイス#show stackwise-virtual neighbors

Switch Number    Local Interface    Remote Interface
-----

```

```
1          Tengigabitethernet1/0/1 Tengigabitethernet2/0/1
          Tengigabitethernet1/0/2 Tengigabitethernet2/0/2
2          Tengigabitethernet2/0/1 Tengigabitethernet1/0/1
          Tengigabitethernet2/0/2 Tengigabitethernet2/0/2
```

次に、**show stackwise-virtual dual-active-detection** コマンドの出力例を示します。

```
デバイス#show stackwise-virtual dual-active-detection
```

```
Stackwise Virtual Dual-Active-Detection (DAD) Configuration:
Switch Number      Dual-Active-Detection Interface
```

```
1          Tengigabitethernet1/0/10
          Tengigabitethernet1/0/11
2          Tengigabitethernet2/0/12
          Tengigabitethernet2/0/13
```

```
Stackwise Virtual Dual-Active-Detection (DAD) Configuration After Reboot:
```

```
Switch Number      Dual-Active-Detection Interface
```

```
1          Tengigabitethernet1/0/10
          Tengigabitethernet1/0/11
2          Tengigabitethernet2/0/12
          Tengigabitethernet2/0/13
```